



左から、河野泰典さん、宮本廣美さん

3/1 熊本市青少年育成市民会議表彰式

ホテル熊本テルサで熊本市青少年育成市民会議表彰式がありました。宇土市では河野泰典さん、宮本廣美さんが長年にわたる補導活動を通して、青少年の健全育成に尽力された功績により表彰を受けました。お2人とも、20年近く宇土市青少年センター補導委員として、月2回の補導活動や夏祭りの巡回活動などで地域の防犯や青少年の非行防止に尽力されてきました。河野さんは、宇土駅付近や市内ショッピングセンターなど東部方面を中心に、宮本さんは、網田地区において子どもたちへ早めの帰宅を呼びかけたり、無灯火自転車運転への注意の声掛けが行われています。



歩いてコースを周る参加者

3/20 おどろき!とどろき! 魅力発見ウォークを実施

轟地区で、史跡や文化財を巡るウォーキングイベント「おどろき!とどろき!魅力発見ウォーク」を開催しました。当日は、大人から子どもまで幅広い年代の55人が参加し、約5キロmのコースをおよそ3時間30分かけて歩きました。コース上の各チェックポイントでは、「うと歴史観光案内人の会」の会員が史跡や文化財を解説し、参加者は地域の歴史に親しんでいました。ゴール地点の宇土市大太鼓収蔵館では、参加特典として地元で採れた野菜の詰め合わせが配られ、参加者は達成感をにじませながらイベントを終えました。



左から、株式会社ソニックムーブ内山貴仁様、宮久保未来様、地域活性化起業人長田哲也様、元松市長、野口企画財政部長

2/27 株式会社ソニックムーブと地域活性化起業人派遣に係る協定を締結

宇土市と株式会社ソニックムーブは「地域活性化起業人派遣協定」を締結しました。この協定により企業・人材の知見や異なる視点を生かし、窓口業務の住民の利便性向上に資する施策や職員のデジタルリテラシー向上に資する施策検討などの市のDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進に取り組めます。



移植ゴテやざるを使用して、発掘体験をしました

3/7 武家屋敷「旧高月邸」で児童から大人まで体験発掘

門内町にある市指定有形文化財の武家屋敷「旧高月邸」において、市民の方を対象とした体験発掘を開催しました。当日は小学生から大人まで10名が参加され、文化課の学芸員が指導しながら調査を進めました。今回調査した地点は、江戸時代に便所や風呂があったと考えられる一画で、移植ゴテで地面を慎重に掘りながら遺構の検出を行いました。調査地点からは、建物の礎石の一部が見つかったり、邸内の表座敷で使用されている釘隠しと同じ釘隠しが出土するなどの成果がありました。



小学校・幼稚園の先生



中学校の先生



新規採用の先生

4/1 教職員辞令交付式

令和8年4月1日、市役所第1会議室にて「令和8年度教職員辞令交付式」を執り行いました。本式典には、市内の学校へ新たに赴任される教職員の方々、52名が出席し、教育長より辞令が交付されました。

式典では、教育長が本市の教育について説明し、「宇土市の子どもたちの素晴らしさとともに、宇土の文化や歴史の魅力も感じていただきたい」と挨拶されました。続いて、辞令対象者を代表して上塚浩一郎校長が御礼の挨拶を行いました。

鶴城中

教頭	宮田 豊子	益城中
教諭	平野 優希	松島中
教諭	村崎 稜子	球磨清流学園
教諭	吉田 和真	松橋小
教諭	園田尚一郎	小川中
教諭	吉田 龍生	牛深中
教諭	三村真理子	人吉二中
教諭	藤田 恭子	松橋中
教諭	日隈 尚人	御所浦中
教諭	將基 礼美	松島中
教諭	竹本 千恵	八代第二中
教諭	入江 誠	小川中
栄養教諭	松本美紀子	湧心館高校(定)
事務主査	黒田 一優	鶴城中(昇)
事務職員	田中 真子	県教育庁

住吉中

校長	山下 直之	菊池教育事務所
教頭	井上 淳一	住吉中(昇)
教諭	熊谷 夏美	阿蘇中
教諭	田上 由依	阿蘇中

網田中

校長	高木 真也	鶴城中
教諭	前田 健一	小川中
教諭	中山 幸明	松島中

宇土小

校長	上塚浩一郎	砥用小
主幹教諭	江上 和朗	当尾小
教諭	橋本 信也	海東小
教諭	陣 晃	松橋小
教諭	前田 典子	松橋小
教諭	工藤 淳	豊野小
教諭	笠井 瑞恵	護川小
養護教諭	坂田 百合	小川中
主任事務	木村 美樹	山北小

花園小

校長	岩下 愛	青海小
指導教諭	丸目 洋一	花園小(昇)
教諭	栗之丸京子	当尾小
教諭	畠田 信明	豊福小

走湯小

教頭	佐藤かおり	不知火小
教諭	角口 翔	玉水小
教諭	前田 至誠	河江小

緑川小

教諭	永野 健志	河江小
教諭	吉澤 智子	武蔵ヶ丘小

網津小

校長	亀井 千鶴	宇城市教委
教諭	中嶋 利彦	小野部田小
教諭	荒木藍結都	植柳小

網田小

教頭	村田 繁雄	築山小
主任事務	中熊美友紀	宇城教育事務所

宇土東小

教諭	田上裕太郎	西小
----	-------	----

新規採用

宇土小	教諭	山本 真巳
宇土小	教諭	野川 淑加
花園小	教諭	福山 倫央
花園小	教諭	古澤 奈桜
鶴城中	教諭	中間 菜月
鶴城中	教諭	岡部 力大



体操で体を動かす皆さん

3/27(金) 身体状態をチェック、友遊宇土/
健康長寿の延伸を

新小路町の市老人福祉センター「友遊宇土」で、体力測定と健康づくり教室が開かれました。身体状態をチェックし、日常生活を見直すことで、介護予防と健康長寿の延伸を目指します。75歳～96歳の男女計23人が参加、握力測定や通常歩行・早歩き、輪投げなどでさわやかな汗をかきました。最高齢は96歳の女性。この教室は春と秋の年2回開催され、参加者は前回のデータを基に記録(データ)の更新にチャレンジします。松山町の後藤和子さん(81)は「人と人が触れ合えるこのような機会があれば積極的に参加して健康法を学びたい。私自身も日ごろから体に気をつけるようになりました」と話していました。



塗り絵で遊ぶ親子とスタッフ

3/27(金) 親子ふれあい広場、市児童センター/
ボール投げ、絵本の読み聞かせなど

北段原町の市児童センター3階プレイルームで「親子ふれあい広場」が開かれています。この日は2組の親子が参加。午前11時から約30分、ボール投げや塗り絵、シール貼りなどで遊び、センターのスタッフが絵本を読んであげると、興味深く耳を傾けていました。親子ふれあい広場は申込不要で、自由参加。さまざまな遊びを企画し、幼児対象の英語教室もあります。詳しくは18ページをご確認ください。



農作業を体験した千原台高校女子ハンドボール部の皆さん

3/21(土) 農業体験で学ぶ「支えへの感謝」

千原台高校女子ハンドボール部の部員たちが、上網田町のミカンや不知火などの柑橘を栽培する、久木田康司さんの農園で農作業のボランティア活動を行いました。この取り組みは、日々の活動を支えてくれている家族への感謝の気持ちや働くことの大変さを実感してもらおうと、小松監督の考えで実施されているもので、今回で3回目です。部員たちは収穫後の剪定枝を運ぶ作業などに汗を流しました。活動後には、久木田さんから感謝の気持ちとして寄付金が手渡され、遠征費など部の活動費に活用されます。同部は3月の全国大会で準優勝を果たしています。



優勝された「パーフェクトショット」の皆さん

3/20(金) 白熱の一投!
第4回宇土市モルック大会開催

宇土市運動公園で、スポーツ推進委員協議会主催の「第4回宇土市モルック大会」が開催されました。大会には28チーム84人が参加し、初心者から経験者まで世代を超えて熱戦を展開。市内各地区での普及活動の広がりもあり、過去最高レベルの技術と戦略が光る大会となりました。一投で勝敗が決まる緊張感に、会場は大いに盛り上がりました。優勝チームは「パーフェクトショット」。西村佳晃さん、八河雄太郎さん、崎代悠太さんの3人が見事栄冠に輝きました。



住吉海岸公園を清掃する参加者ら

4/2(木) 未来ヒーロー、ジンベエ生誕祝い清掃/
バンド演奏やクイズも、環境や未来考える

住吉海岸公園一帯で「海の仲間と未来を守れ ジンベエさん お誕生日大作戦2026 ジンベエさんと学ぶ、海といのちの循環」(未来ヒーローPROJECT主催)が開かれました。大勢の人が参加し、海岸沿いのごみを拾ったり、バンド演奏やクイズなどを楽しみ、環境や子どもたちの未来などを考えました。公園内には熊本地震の復興プロジェクトの一つとして、ジンベエ像が設置されていて、ジンベエの誕生日(4月2日)を祝って保育園児らがお祝いの歌を歌ったり、汚れを拭き取っていました。



米と水を耐熱用ポリ袋に入れ、鍋で炊く参加者ら

3/30(月) かまどの火で調理、
熊本地震を教訓に

網田コミュニティセンター「しとらす」で「防災クッキング体験教室 ～かまどの火で、命をつなぐ～」が開かれました。しとらすは、平時には市役所の支所・公民館として、災害発生時には避難所になります。マンホールトイレや調理室などを備え、約100人の収容が可能です。熊本地震を教訓に網田地区振興会女性部が企画し、約20人が参加。防災士で、備蓄防災食調理アドバイザーを講師役に、常備されたかまどベンチで火をたき、親子丼、黄な粉団子を作りました。参加者は「災害時に防災拠点である『しとらす』の機能をフルに生かせるようにしたい」と気を引き締めていました。



まといを受章した宇土市消防団のメンバーら

3/27(金) 市消防団が最高の栄誉章「まとい」に輝く/
全国2,200消防団の頂点に

市消防団が全国の消防団最高の栄誉章である日本消防協会特別表彰「まとい」を受章し、伊豫孝信団長ら6人が元松市長に受章を報告しました。全国約2,200の消防団の中から毎年わずか10団体のみ授与され、県内で「まとい」を授与されたのは3年ぶり11例目。伊豫団長が「先輩方の意志を受け継ぎ、今後も努力してまいります」と述べると、元松市長も「市民を守るみなさんの熱い思いが受章につながりました」とたたえていました。火災対応や災害発生時の迅速な行動など地域との連携が高く評価され、受章につながりました。



左から、市社会福祉協議会小山郁郎事務局長、一般社団法人ジャパンネーブル協会堀内勇一代表

3/25(水) ネーブル70⁺を寄贈、宇土市社会福祉協議会へ/
ジャパンネーブル協会

網田地区のかんきつ農家らが集まる「一般社団法人ジャパンネーブル協会」(堀内勇一代表)が、市社会福祉協議会に網田ネーブル70⁺を贈りました。堀内代表が「多くの人に網田ネーブルを味わってほしい」と手渡すと、市社協の小山郁郎事務局長は「とてもありがたい」と喜んでいました。市内の子ども食堂などに配られ、食材などとして活用されます。網田地区で収穫される網田ネーブルは濃厚な甘み、バランスの良いさわやかな酸味が好評で、清々しい香りが特徴。全国に知られ、宇土市を代表する特産品の一つです。



新規採用職員に講話する元松市長

4/16木 「市役所が消えた日」を忘れない——熊本地震10年、震災の教訓を次の世代へ

熊本地震の発生から10年の節目となる4月16日、宇土市は震災後に入庁した職員を対象とした「大規模災害に備える人材育成研修」を開催しました。現在、全職員289人のうち約4割にあたる112人が震災を知らない世代です。元松市長が自ら講師を務め、庁舎4・5階が損壊し行政機能を一時失ったあの日の混乱を語りました。公用車の鍵が取り出せず私用車で物資を運んだこと、通信が途絶し防災無線すら使えなかったこと——。マニュアルが通用しなかった現場のリアルは、約60人の受講者に深く刻まれました。



代表で挨拶した住吉漁協山本敬一組合長

4/14火 ドゥルー祭しめやかに、住吉漁協/海苔生産者、漁協関係者ら120人が功績たたえ

住吉漁業協同組合で「第63回ドゥルー祭」が執り行われ、海苔養殖技術の向上に貢献した英国の海藻学者、キャスリーン・メアリー・ドゥルー・パーカー女史(1901~1957)の遺徳をしのびました。女史が自らの研究成果を、親交のあった日本の研究者へ伝え、さらに県水産試験場が研究を重ねた結果、現在の養殖技術を確立したといえます。女史の功績をたたえ、1963年4月14日に住吉神社境内に記念碑を建立。以来、この日にドゥルー祭を開いています。山崎恵一経済部長や市議、県漁連、海苔養殖漁協、海苔研究機関などから約120人が参加。住吉漁協の山本敬一組合長が「今後も海苔養殖の発展に努力してまいります」と誓いの言葉を述べました。



表彰状を手にする金田さん(左)、藤森さん

4/6月 交通事故抑止に尽力 交通安全功労で表彰

春の全国交通安全運動宇城管内合同出発式が市民体育館であり、地域の子どもの安全を見守った本町6丁目の金田繁さん(77)と旭団地の藤森祐子さん(73)に、交通安全功労者として県警本部長と県交通安全協会長の連名で表彰状が贈られました。2人は十数年間(午前6時45分~7時半)、児童・生徒の登校時に横断歩道などに立ち、目を光らせました。「冬は暗いですが子どもたちの元気な姿を見ると、こちらも頑張れます。今後もお役に立ちたい」と気を引き締めていました。



桜咲く立岡町を歩く参加者

4/4土 桜咲く花園を歩く フットパスで魅力再発見

うとフットパス協会主催の春の体験イベント「花園・桜コース」が開催され、市内外から14人が参加しました。参加者は花園コミュニティセンターを出発し、立岡自然公園の満開の桜を楽しみながら約6キロのコースを散策。その後、五色ふれあい館で地元住民手作りの焼き芋やちゃんこ鍋が振る舞われ、温かなおもてなしを味わいました。さらに五色山の遊歩道を歩き、地域の自然と交流を満喫。参加者は「桜も交流も楽しめた」と笑顔で話していました。うとフットパス協会は地域の魅力発信に取り組んでいます。



来場者でにぎわう網田マリンフェスタの会場

4/19日 雨空の下でも熱気あふれる 網田マリンフェスタ2026開催

春の恒例イベント「網田マリンフェスタ2026」が、宇土マリーナ芝生広場で開催されました。当日はあいにくの雨となりましたが、小雨決行のもとイベントは予定どおり実施。来場者席には臨時的屋根を設けるなど工夫し対応しました。会場では網田中学生による「みかんアイス」の販売や、ステージでのダンス・演奏、もちの配布や抽選会などが行われ、雨の中でも多くの来場者でにぎわい、地域の魅力を体感しながら笑顔あふれる一日となりました。



感謝状を手にする山本さん(右から2人目)

4/17金 退任の人権擁護委員、山本さんへ感謝状 人権啓発などに尽力、市長が謝辞

人権擁護委員を退任された山本多美男さん(76)に法務大臣から感謝状が贈られ、市役所で伝達式がありました。2014年4月~2026年3月の12年間、人権擁護委員制度の周知・広報に取り組み、人権思想の普及啓発、被害者救済などに尽力されました。元松市長が市民を代表して「社会貢献のため多くの活動をしていただきました。これからもお力をお貸しください」と感謝の意を伝えると、山本さんは「私も勉強をさせていただきました。まだまだ頑張らねばと思っています」と話していました。



鶴城中女子ハンドボール部の皆さん

4/7火 春の全国中学生ハンドボール大会で2連覇/市長に報告、鶴城中女子ハンドボール部

第21回春の全国中学生ハンドボール選手権大会(富山県氷見市、3月26~29日)で、鶴城中女子ハンドボール部が優勝。部員らが元松市長を訪ね、結果報告をしました。決勝はHC京都(京都府)を41対23で破って2連覇。元松市長が「連覇は難しいのですが、圧倒的な強さを見せてくれました」と今後の活躍に期待を込めると、岩崎璃子主将(3年)は「温かい声援を送っていただいた市民のみなさんのおかげです。夏の大会に向けて頑張っていきたい」と決意を新たにしました。今大会では岩崎主将、平江心美(2年)、那須玲衣(3年)の3選手が優秀選手に選ばれました。



出発した車両を見送る参加者

4/6月 春の全国交通安全運動宇城管内合同出発式/市長ら決意新たに、事故ゼロ目指す

春の全国交通安全運動(6~15日)の宇城管内合同出発式(市主催)がecowin宇土アリーナ(市民体育館)で開かれました。市商工会や宇土ライオンズクラブなど16団体の計140人が参加。交通事故犠牲者への黙とうの後、交通安全功労者7人を表彰。元松市長が「子どもたちやお年寄りを悲惨な交通事故から守りましょう」と呼びかけ、宇城署の白石幸二署長、宇城地区交通安全協会の須々美哲会長らが交通事故ゼロを訴えました。最後に街頭啓発のため白バイやパトカーが街中へ出発、参加者は交通安全への願いを新たにしていました。